

タイトル… 汐製菓会社の新作 ♪  
今川焼 ♪

---

登場人物…

- 汐（しお、30代）… 汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、奇想天外な商品を次々と発案。失敗を恐れない。
- 塩田（しおだ、30代）… 汐の秘書。真面目で心配性。無類のお菓子好きだが、社長の大胆な発想にはいつも頭を抱える。
- バイヤー1（男性、40代）… 国内の食品バイヤー。保守的で、堅実な商品を求めている。
- バイヤー2（女性、30代）… 海外のバイヤー。新しい味覚の挑戦に興味があるが、クオリティには厳しい。

- ・ 試食者 A (国内) : 一般の試食参加者 (男性、20代)。
  - ・ 試食者 B (国内) : 一般の試食参加者 (女性、40代)。
  - ・ 試食者 C (海外) : 外国から来た試食参加者 (男性)。
  - ・ 試食者 D (海外) : 外国から来た試食参加者 (女性)。
- 

### シーンニ：発案の瞬間(10分)

(会議室。汐がホワイトボードに「新商品案」と書き、力強く「今川焼」と記す。)

汐：「ついに決めたぞ、塩田！これが、次の新作だ！」

塩田：(少し呆れながら)「また突然ですね、社長。今回は何ですか？」

汐…（大きく胸を張って）「グラタン味の今川焼だ！」

塩田…（一瞬固まる）「…グラタン味？ホワイトソースが入っているんですか？」

汐…「そうだ！これこそ、新しい時代の幕開けだ！今川焼の生地とホワイトソース、これを組み合わせたら絶対にウケる！」

塩田…「確かに挑戦的ですけど…甘くない今川焼って、どうなんでしょう。デザートなのか、それとも…おかずですか？」

汐…「そこがポイントだ！固定概念を壊すんだよ！今川焼はデザートだけじゃなく、全く新しい食事として生まれ変わるんだ！」

塩田…（苦笑しながら）「社長、挑戦は大事ですが…ちよつと無謀じゃないですか？」

汐…「無謀だからこそ、面白いんだよ！さあ、試作品を作るぞ！」

（汐がホワイトボードに「グラタン味今川焼」と書き加える。塩田は心配そうに見守る。）

---

## シーン2：試作品作り（15分）

（試作室。汐はホワイトソースを鍋で混ぜ、生地に注ぎ入れる。塩田はじっと見ているが、表情は不安げ。）

汐：「見てくれ、このホワイトソース！まるで白い宝石のようだろう！」

塩田：「確かに、ホワイトソースは美味しそうですけど…。これ、本当に生地と合うんですか？」

汐：「塩田、何度も言うが、濃厚だからこそいいんだ！このホワイトソースが、今川焼の新しい未来を作るんだ！」

塩田：「でも…今川焼といえば甘いもの、ですよね？グラタン味を求める人がどれだけいるんでしょうか。」

汐：（自信たつぷりに）「甘さにこだわる必要はない！食べた瞬間、誰もが驚く。『今川焼 Ⅱ 甘い』という固定観念を壊すんだ！」

（汐は生地を流し込み、今川焼を焼き始める。室内には焦げた匂いが漂う。）

汐：「ほら見る、この黄金色の焼き加減！最高だろう？」

（試作品が完成し、塩田が一口食べる。）

塩田：（顔をしかめつつ）「あの…グラタンの味がかなり強いですね。ちよつと今川焼とは別の食べ物になっている気が…。」

汐：「それでいいんだ！全く新しい商品を作るんだからな！」

塩田：「でも、これでデザートとして認識されるかは…かなり微妙ですね。」

---

### シーン3：宣伝会議（15分）

（会議室にマーケティングチームが集まり、塩田が新商品の宣伝戦略について話し合っている。）

マーケティング担当者A：「社長、今回の『グラタン味の今川焼』ですが…ターゲット層はどうお考えですか？」

汐：「もちろん、全世界だ！」

塩田：（苦笑しながら）「また大きく出ましたね、社長…。もう少し絞った方がいいかもしれません。」

汐：「いや、絞る必要はない！グラタンだって、今や世界中で人気の料理だろ？それを日本

の伝統菓子と組み合わせたら、誰でも驚く  
さ！」

マーケティング担当者B：「でも、甘い今川焼  
のイメージが強いので、この商品をどう受け取  
られるか…。少しリスクがあるかもしれませ  
ん。」

塩田：「実際、試作を食べましたけど、かなり  
味が強いんです。もう少しデザートらしさを  
残した方がいいんじゃないかと…。」

汐：「いいんだ、塩田！人々は新しいものに驚  
き、話題にする。それが重要なんだ。さあ、試  
食会を開こう。国内外からバイヤーや試食者  
を集めて、この新しい今川焼を試してもらっ  
んだ！」

---

#### シーン4：国内外試食会（20分）

（試食会場。国内外のバイヤーや一般の試食者が集まる。汐は自信满满で商品を配り、塩田は心配そうに見守る。）

汐：「さあ、皆さん！これが新作の『グラタン味今川焼』です！これまでの常識を覆す新しい味覚を楽しんでください！」

（参加者たちが試食し始める。国内の参加者から最初の反応が聞こえてくる。）

試食者 A：「ん？これ、甘くない…。」

試食者 B：「え、何これ？グラタンが入ってるの？」

バイヤー 1：「これは…しょっぱい。今川焼って

普通甘いものじゃないんですか？」

バイヤー 2：「うーん、ちょっとおかずっぽいです

ね。デザートとしてはどうなのでしょう。」



汐…（笑顔で）「その通り！今川焼はデザートだけじゃない！これは新しいジャンルのスナックです！」

試食者A：「でも、甘いものを期待してたから、正直びっくりしました。」

試食者B：「子供が好きかどうかは…微妙です。かなり大人向けの味です。」

（塩田が小声で汐に耳打ちする。）

塩田…「社長、反応がちょっと微妙かも…。」

汐…「大丈夫だ、まだ序盤だよ！」

（次に、海外の参加者たちの反応を確認する。汐が海外の参加者に話しかけるが、塩田が通訳する。）

試食者C：「これは、パンケーキのようなものですか？でも、中がグラタン？」

試食者 D：「甘くないのが意外ですね。デザートとしてはちよつと違う気がします。」

塩田：「そうですね、これは日本の伝統的な今川焼と西洋のグラタンを組み合わせた商品です。」

試食者 O：「面白い発想ですが、これをデザートとして食べたいかどうかは…ちよつと疑問です。」

試食者 R：「確かにユニークだけど、もう少しスイートな要素が欲しいかも。」

（塩田が汐に結果を報告する。）

塩田：「社長、海外の参加者もやっぱり『面白いけど、デザートとしては受け入れにくい』って言ってますね。」

汐：「よし、これで次のステップが見えた。次は、さらに大胆にカレー味に挑戦だ！」

## シーン5：新たな挑戦へ（5分）

（試食会の後、オフィスに戻った汐と塩田。）

塩田…「社長、試食会の結果を踏まえて、もう少し改良が必要ですね。特に、甘さのバランスを見直すとか…。」

汐…「いや、あの反応で確信した。次はカレー味でいこう！今川焼は甘いものという常識をさらに壊していくんだ！」

塩田…「また新しい方向に…。でも、少し楽しみです。」

汐…「そうだろ？挑戦こそ我々の使命だ！次も面白いものを作っていこう！」

（汐がホワイトボードに「カレー味今川焼」と書き込み、塩田は苦笑しながら頷く。）

塩田…「はい、次も全力でサポートしますね。」

(エンディング曲が流れ、画面に「次回、新商品開発にご期待ください！」というテロップが表示される。)

---

## エンディング